

秋だけなわ



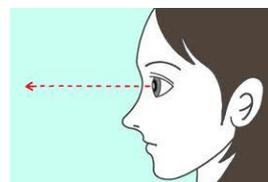
今年は残暑がとても厳しかったですね。ようやく秋めいて、心身ともに疲れを癒す絶好の季節となりました。

さて、秋といえば山登りにハイキング、紅葉狩りなど全身を使う絶好のチャンスですが、静かな夜には親子でゆっくり読書や読み聞かせなどはいかがですか。そこで、今回は“みる”というとても身近なテーマについてお話ししたいと思います。

【コラム29】 “みる”ということ…

みなさんは知っていましたか？

- 私たちが取り入れる情報の80%が目から入ってきます。
- 両目を開いているとき、脳の活動の67%が視覚に当てられています。
- 学校の教室で習うことの75～90%が視覚に依存しています。
- 学齢期のこどもの25%が視覚情報処理の問題を抱えています。



★**視覚**とは「視力」のことではありません。視力とは、視力表の文字を見るために必要な能力で生まれつき備わっているものです。**視覚情報の処理「見ること」**は、生まれつき備わっているものではなく、成長とともに「自分の目に映るものを理解する」ということを学び、発達していきます。ところが、この視覚がスムーズに働かないと、単なる目だけの問題ではなく、目と体が上手く統合されないことによって実に様々な問題が生じてきます。

- ・色、形、数字、文などを合わせたり分けたりすることが苦手
- ・物の奥行きがわからない
- ・細かい文字に焦点を合わせて集中することが苦手
- ・中心となるものと背景となるものとの区別がつきにくい(『ウォーリーをさがせ』のような絵本が苦手)
- ・人ごみの中から友だちを見つけるのが苦手
- ・左右の区別がつきにくい
- ・動き(何も無いところでよくつまづく)
- ・姿勢(よく机にぐったりともたれかかる)
- ・目と手を同時に使うことが苦手(クレヨンや鉛筆を使う、服のボタンはめ)
- ・目で見た情報を動きとしてイメージするのが苦手(階段でつまづく、物をとるのに腕を伸ばしすぎてしまう)
- ・顔の表情やジェスチャーなどを間違っして読み取ってしまう。

では、どうやって私たちは「自分の目に映るものを理解する」ということを学んでいくのでしょうか？

答えは「動くこと」です！！動くことはすべての学習の基礎ですが、体を動かすことによって、目が「視界にあるものを理解すること」を学ぶのです。じっと座って本を読んだり、コンピューターの画面を見たりするだけでは、目は何も学びません。目は単なる視力ではなく、視覚による情報を脳が**聴覚、触覚、動きの感覚と関連付けている**ことで実に様々なことが無意識に行われているのです。

「動くことによって見ることを学ぶ」ということを忘れないでください。

参考文献；でこぼこした発達の子どもたち 監訳 土田玲子 すばる舎

如何でしたか？私たちがいとも簡単に自然に、そして無意識にできていることが、こんなにも視力に関わっていたなんて驚きでしたね。そして、見ることは動くことによって発達するというのも…。 さて、次回は『**聴覚**』について取り上げたいと思います。お楽しみに。

